

始めあと下

さるよ爲侍。六義編序題興流。たゞ
ちりしきよりある侍り。先哲傳り侍。ひ
かえらるゆきうわうさん。好士ひうどり去
めの紙作侍ん。代ぐ集の趣。又化人の意
歌。足紀史侍んより。ちばはれとて。ち
く古今集みをじ称と書ゆ。侍り。ひ
づの月記を。あと。此あ條之事と。そ
れども。さうかとたむ。爲く侍。より。か
いり。そり。ねが紙作んより。

利五
九二
卷二



人の才智とめりんとと続りり。一作りん名也。
六義なり。前題も亦一作り。篇序題曲流れ
スハ奇の立不化。曲名なり。ト
篇と人とあねるよ里もゆすと。前橋也
序ハ。前題もどとまのほどり。也
題をばく紙のひよ。まくるかのう。也
曲ハそれき趣と。ゆすとす。也
流ハいと。曲とあひく。あく。あかく。也
此曲乃作曲と連歌曲と上下。也。勿々。也
つよ吟合て。の。也。一作用ひたく。也

是より。答といふ。くとた。有。かべ。一作見
まく。好士。ハ。ぞ。け。ち。み。や。と。こ。あ。れ。ど。。せ。う
ゆ。の。ゆ。と。の。ゆ。と。ら。う。大。や。う。よ。り。い。か
き。る。不。と。が。も。た。が。く。あ。べ。一。あ。か。れ。じ。う。ゆ
純。じ。り。ひ。の。く。一。ひ。き。一。も。か。不。り。く。ト
も。也。あ。ゆ。ふ。よ。か。よ。か。て。吟。合。ト。も。り。く。
篇序題曲流れ。スハ奇の立不化。六義ハ。わ。ず。乃
六根も。く。べ。一。と。も。也。也。よ。み。ど。も。け。は。が。な。れ。わ
破。失。徳。絶。後。緒。序。正。流。通。圓。縁。譬。喻。也。と
ト。作。よ。ま。だ。く。也。一。と。も。也。され。ば。古。人の。も。た。る。

久の月 星空乃ふ 雨はれども
お祭りが 朝れてあやめ 又河
の川のほとり ひとり秋のすゑおのとをなど
あり。翠にやよあぐくしくとけり。只
河のまろみ。山もおもてたり。もしひれど
てすわゆきばれす。おびたすよえんす
とうす。是よかく薄かとりふとあり。され
えきとうせきゆよ。大きかる病也。ひとり
月よかのりかくつれど。秋のねの葉もす
れあきてきどりあはれもせきるよ。病とす

いおへえぢる 空月あぐくと也
都のうじゆよ。わか人のおとびりす。とくとく
わくをそりね作をじ

かほめくすれむの月とあくやう
いとねりよ。はづき。ひえ。まひる。とくとくと
きを。よひよ入る人のが。けふざののが
あぐく。よば枯れの声とそさんかう。有
り月ばかりのまづはく。とくとくと
歌を。歌を。人ひぬどりゆべ。又か人のおとび
りよ。けうとよとて。うと歌。おとと云

かづくらをの層の解説は筆致もあざやか。この源氏物語
先とえよまのびのじやへして。わざと行は
よつてけとも云ふ。ひ通よつて。ふさはまち
えんとよとゆりすきよりとり。縁といへ
じとくひよたのり源とゑの厚きぢもとよ
みあづかず。深紅の胸へらみさんかよ
をうすく。おはよれきりとよあ。あ
人の情と心れどその人へりんふひのり今
ととあくすひやうんへりよむ。あふ
匂す。おながくもるまがばす。利や

さくくぬとの耳よりハ傷のて聲をひぐ
ひきよあづきを。ちば古人の氣が自
贊へたとす。ことひだりとすがれかと
足しど。ほよ上代の事とすがれかとす
せよどに。うまくる世へうるをうちゆかよ
き。秀逸とぞとぞ。ややうん。い家。あ瀬
とぞ。おうかとぞ。せせ
公がれ。かとぞ。歎い。けらき。歌とぞ
とぞ。歌者士。ハ。うきとぞ。市。あ。ある

ばれ也。傍反の燐火うら
よしも漫轉ハ麺とはアラウドモカシコキ筋と
えり也。司馬相如ハ衣と一もとてたゞさむとい
魚食わば。力は波とひくどき。名うれど。
あらハ西道。東がさうされば。長やまふすと之
は湯河かさうん亨うちわの貯蓄をもぐ。さく
ひりいろよ吹き。月夜電とくともく。
ねば吹けみと。まうざ不肖の寢ゆすとての
ふましきやうにからり。やり

おめり。ゆくへ乃二條大國主の府邸。雲寄の
おもみす。未だあまなり。國の法師。たと
ニ十七。かゝり。そふとを。毛作あれ。おもむり。
ゑす。毛作ひふと。や。ちひひける。や。哥
どれ絶とくじふよ。と。死をあがむ。とて。麻たむ
とまつや。す。か。ひ。ほか。寝云々がたをと。
上は。こゝ。廣義。なと。と。追及と有とする。經
のや。か。ゆるゆよ。たれまこと。のぞみれとく
竹下。佛は。とかく。人あり。か。ゆとりと
ひふと。か。ゆふと。京わと。とくする。好古

がよひる。教理あり。お得の人のがよひる。
到得の人がよひる。とのて。かへぬ。まはだり。
香教權理実とり。公外はめ。ハ生死ノ輪廻。
一心是れば死とんどらずみとり。リ
育爲報佛夢中權果無作三身覺前實佛。
ちふゆきど。定惠のきがそめ。ざんくわん。人を。
先達とくべつどとく。

いづこれにむかひ。てに侍とも。物よびた。感
情而教修持と有りて。いふをひあす。おどり
をなふ。幽玄裏へあひ。も。うみを不の御と
て面教がうりとの。り。ア。き。御極の御也。事を
れ人一人の。らびとか。あべーと。え。家に。ある
ト。経。好。経。好。経。月花と。ばや。そ。ち。見
かね。あ。れ。和。よ。ち。り。ら。う。と。か。れ。る。本
法よ。き。く。さ。み。く。と。か。ら。う。と。か。れ。る。本
法。よ。く。え。り。湯。い。よ。お。つ。ね
や。月。食。ね。い。付。口。急。を。見。教。あ。う。と。も。

もくらうと身内感情等困たす。急詩よ春
風桃李に開日秋露梧桐葉落時局。此歌の哀愁
ややもげぬ旅よりおもゆ也。向ひかばんのを
ぞれ。されば世人も哀の音が流れニ四首。もうと
沉思かゆとり。お壊遠れどんははよ胸のうこ
もうあざむとあらじと也。乞家の旅枕つ日ひす
さをよゆくらてり人まみねあれ白毛。清麗和尚詩
秋の日へとむりとむきよつて八雲のそよてよ秋の氣
けふの秀琴漆よきあれ御女作自悟の音めじ。射すると
うるる。巫山の仙作女八瀬五湖の極水れ面鏡ハ射去

わづはと今ノ次若以^{經云}是^レ也見我以^レ音^レ未^レ我^レ是^レ人
行邪道不能見如來^日我覺本不生出過諦言道
遠離於因縁知空等虛空

明けゆく人の^レ持合^キいわゆる。まづく
かのうゆく。ひまく。まづうゆく。安^レ作^レぎりやうん。持合^キ
唄^キうれし。持^キようぐ。へとむか^レ。安^レ階級^スの上^ルか
ぬき^キうなれば。假令佛^{さう}成^レ佛^{さう}成^レ佛^{さう}みどり^スく^スく^ス
也[。]戒海^{さい}八^ハ赤^レ垂^シ海^シよわ^レ次^ス絶^スる^スゆる
と^モうみ^モあくろく^モやうり。心地^ハと^モう^モとすりゆる
されば。海^ハうれむよへき^モ。奇^モ人^ハ格^ス式^ス乃^モうゆ

たうかの色。天台云戒縫衆乞人あり。戒縫
戒盡人也。日利根外道邪相正相入
鈍根内道正相邪は成とひり。日戒虛空如持
者顛倒とをも云。日真毎生釀冤竟持戒り
とりうげみへえしやみど心地とひゆく。
かいきらうす。か人を救はば。が便とくされ
ゆり。まととれ人をあべ。云賓傍鄙を取
とが又山田もとと成。教侍和尚を傳三井ちかね
とおも食へ。後引と也。淳元小山子もひふといふに
と見もが。としあけだ踏とわき。とまうと也。

善友のまよ
勝友のまよ
勝友のまよ上人ハ牛よ家て。がきとやんとを
かようじて。供とよ東洋とうようへ。あつひを
じ。戒ハ仏法乃惠命。徳たれどれて。徳宗とくの尊
進の対一すり。ちろそりふぢり。どせ。が
五戒と云。五常と云く。へいの名めり。仁儀礼
智信。是あぐくもあくて。ハ方た破竹はくちくべ。微
巧こうよ絶。禪ぜん已達いだつと。ごりくすゆめり。
禪人已達いだつの事こと。修しゆめり人の字まな見みよわど
れみれ七十しちじゅう。がもとあいどとの爲ためど
あい。拂合ふりあ候まと。かくぞとよあぐ。すとめり。

歌
まきうみをすり綴内津。か津内綴。すゞよ
さうで、べつ格よ姫うき歌。

（）あそに源氏のゆりをすりぬけ
ちひのあきれと町のせんたるぞぬき 無事
飼育とく取むわと見ほして公の先よめにゆき 仲実
けふか豚肉津のふすみ。ふとば食候は
アしたくこそる。人ひきかへて因よめ
死もじ又密れよ死へくとべつ紀までりやも
はくとから

行うねふちろしれま送よおにと命九幾よ撫ね

歌えぐふねとすすが津内縫のすすり。帰よ
て不津乃ねとけくこゝりかうべ。人い帰れ清
きひあくられより也。べつやくらむ。帰りとく人。
（）は人乃飛よ先達ひがとと君のひえのま
ハ吹橋よらひづく。けり。つよひとても極古と
工支よ。遙よへりうべき。そればつらじくられ所
教おねよ眠とまくせかと。聞りよ吟複自氣
の石くひ。のむり。あ行よ人ひするよ
ひとよ隊を喰ひれたよ。とせんたる
よ。争りやか。れ。横直路のまをよ。一。絶伝の云

和歌ハ源通乃事也。善托とすひれ直路也。
真如室われどり。ニナ一字よかしゆまうとい
有る。己家みび角と魚よ様物も多き。俊成
はよ之を以人。人すふふ一大事也。ひたよも
めたり。只今れあ未と忘能る。ありあらゆも
とも。かひてよづじむいたるより。但若大
の事所に見ゆて。うちもととく。又ゆ
きたと跡にて。ちゆすよすみられけむ。とてお社生
とさげまへ。源通則心直路の傳ゆ也。
可もひのぞく。也。されば篇序題與流文

立大不外。立佛。立智。立內と立。六義。
六道。六波羅密。六度。六度。古今集
唯頂もくじりて。密宗れ一大事。傳よひつ
めり。即ち。やどり。あたは岩國のぬれ尼也。
綺語と編す。附の經緯と。多く御毛と修むと
ふ。蒙古。蒙古。蒙古。
中止。かしらひ。八像乃好士。一匁のうす
こと。りもくまとて。かり。きと秀逸。よも。繊
ぬり。とくとく。それ。ゆ。か。哥。化。乃。唐尼。
考ハ秋。と。や。う。と。ゆ。と。ば。い。ぐ。う。の。地。哥。モ。考。

物より。連歌れんかハあがれよりさぬよ。えぐか
さよ去けんうゆかかへとく。そとへば。大佛だいぶつハ蘭部
よろりとりんのより三景さんけいの嬰兒えいじもす
かゆきよ。それどしひふが妙體めうたいのえよあぢる海
のまく。小傍ちうそ小地福ちうぢふくとうききる。言下ごんげの邊聲へんせい
ハ嘆なげきことじ通とお歌うたす。歌うたす歌うたすとめうよ。ひとりの歌うた
也。され隱ひ能のうのよひ也。

白歎しらなげのう

云患うんかん卿きよ

あをひれどるよどく河かがひる。ざりぬきよくすれ
大井おほいの通とおく。お家いえゆわまとひれ

あらびのちよかん

御土みどよそてとくみどひづら歌うたよ。遠とおの所ところ
ゆよく。家曲いえきょく乃旅の感情かうじょうや
明あり人ひとハ船ふねし化か人ひとハ舟ふね。身み寄より乃のを。魚うおをす
ととじととびと。舟ふねよと。舟ふねよと。舟ふねよと。舟ふねよと。
ひとよと。舟ふねよと。舟ふねよと。舟ふねよと。舟ふねよと。
魚うおよと。舟ふねよと。舟ふねよと。舟ふねよと。舟ふねよと。
らぬ。ぬすね。まよと。いづりたし。あり。まよ
と。ぬすね。まよと。ある。まよと。まよと。まよと。
ぬすねと。ぬすねと。ぬすねと。ぬすねと。ぬすねと。

和譜
十一
やうてん所處也。成佛國去教化元也。大
神也。のとくしてぢとくへらつるよびりや
のねと佐古すかみとそくとやまとある
ゆよ生氣乃羽ありとひ。地よもじてたま
地よもじて起ざ。又良家ハによ。み
とりども病といやも。日本伝繩材也。東洋傳
賢也。日純勵もさげハ利瓦もミグレハ
魏文王仁亮が歴と云翟黃がいよ「そ知
り給ひ」。云々太常情縁不諫小長畏
不言法ハ無生也。縁と物く成とひ。よ

陶乃中ちうきりまくねんは。らゆるすも
文於也。麻乃中れ遠れいはく。文紀の
とさす。友よりてかふらじ。もろくゆる
き。又かじて。不能とあ。一はく。りん。以
貳る。寔。まか。以友み後。もく。文。如水。りん。文。
如糖。不直友。不善早離。善見。如審。見。人
如美熟。樂天。元情。ハ。行。底。わ。の。め。く。遺文。軸
玉。乃。ま。わ。原。よ。れ。出。よ。骨。ハ。行。て。石。ハ。御。す。
菅家。序。詩。と。あ。め。く。統。皆。し。紀。太。御。言。乃
お。へ。ま。の。い。ま。も。哀。す。き。ト。を。延。徳。乃。よ。

ひの。よ。ふ。人。へ。た。り。も。れ。す。同。宿。月。あ。の
一。中。入。友。と。色。情。深。き。類。と。ふ。く。い。く。くれ
も。い。無。意。ひ。也。一。達。塵。大。作。と。生。前。學。や
し。と。長。ひ。よ。級。は。く。と。わ。く。し。せ。よ
は。墨。ひ。か。だ。木。よ。う。が。ひ。き。か。御。約。か。り。と
り。う。書。嚴。和。高。弟。に。書。経。ひ。一。而。風。よ。は
け。経。目。イ。書。す。ノ。和。す。て。友。の。ア。の
こ。お。ひ。い。て。ゆ。と。向。一。傳。あ。う
川。流。の。親。か。へ。歌。ま。さ。の。も。み。く。は。う。か。哥
佛。よ。ゆ。す。た。古。人。佛。と。ゆ。教。よ。は。く。の

御詔下
ノリトハ傳よ焉モ竹と通。乞氣の如く陳尔よ
のモ秀逸ハあり。親勺不傳於り。以久人乃
親勺密。乃親勺。ハハ陳勺。密。乃陳勺。ニ
也。引略。親勺ハ有相。陳勺。無相。親勺
ハ教。陳勺。祿。經。又。了。義。不。了。義。經。也。諦
第一義諦。有門。空。行。了。悟。

引。ト。リ。ヨ。ト。ト。之。ケ。す。ハ。ソ。リ。テ。う。哥。乃。ハ。生。死。と。
あれ。ゆ。ん。は。よ。そ。門。大。悟。乃。心。と。そ。特。有。不。
得。と。教。も。され。在。天。台。相。即。室。門。よ。十。眾。
六。乃。四。體。一。相。每。洞。と。り。ト。リ。被。戒。也。能。達。也。

定と度とする也。佛五十年の後。或い二十
年ハ畢竟定とと定まつて也。ちふかめ也。初
々乃叶ハ。凌。さ。し。深。さ。入。年。く。ほ。ハ。深。さ。よ
已。凌。よ。あ。ソ。リ。是。法。乃。ハ。初。の。寂。明。と。ト。ア。及。固。
全。果。後。果。向。固。有。相。ハ。哥。乃。ハ。無。名。諸。多。ハ。安。乃。
ハ。無。用。な。り。が。伝。權。用。ち。ろ。そ。う。ひ。う。而。之。に。
流。一。大。事。圓。纏。ハ。小。事。ち。り。而。之。あ。と。り。す。
固。と。ハ。有。不。得。の。所。と。從。く。人。と。化。す。と。之。え
世界。の。人。の。眼。と。や。く。も。し。ど。う。的。と。之。發。す。る。

物の奇人へとみをまう。孰かうはまく
くもくとゆる色の如き。佛のつらひとくせ
とあ。此た才術の内にいまとお極まふて
うへ初もそげてはまくの高仙よめの
河口には寐蓮峰。有るつ。高達の御壁の
下、幽玄と密ちんとすれし也。敷地被
け。後成の通異はえ家にすと有の罪とあまき
極と走。むくとす。裏あくゆとくに胸の底よ
足がるり奇。我を考へぬよりあつて、
色家卿。御奇。十年の御隨と云ふ。

毛馬本家。之處。村の處をもとす。

清嚴和尚。

弟と阿の妹の目撃者。さうあれ。死後。もの
がほれ文子。ゆともか人のひととろゆん作矣
ひともひよ。さうて。大して。あもしれとよ
て。幽玄と極を重んじて。云がせ。ハニコヘ他修
り。ノ奇たり。

別人。居ゆる。かの由をわす人。かは人。何とぞ
以て。人。かの由をわす人。かは人。何とぞ
魚よ上。宿す。大通。室。家。詩。号。へ。才術をもつて

魚吹子

故郷育毎株風浪旅館人驚る魂

さひよすかねえむれん嘆風の物の風
け二と鬼拉郎入する。奇異ノ木也。志寧乃め
木引御よ波くよへ。又驚い万葉集奇ニモ
絶く秀奇とぞきり

因事う今ゆりをふ身人まみれぬれとめん
ほくやお奴とてひきやひきまえ骨つみ
毛又秀造とふるよどや。そと毛あらじ絶びと
くよくう。それとみせりあら

いづくら能幽去へ好士も。又地鳴りうるそ
うるんはくらうるうたがとひう。いふす
たとちくさひ幽去とよひて瓶の久ひ
うちれ氣利かふへ。と。ひみへもひと満まく
く思へふ草。世へうまれとよ一人より。おき
廻よせ。好士ハ又氣利の仲好とひう。く
乞がくくくとよう。終り。在同入通と
八十又及く秀奇とのよひて。住吉八之又
腰あよからもく。あくまと。せき道清郎ハ
きそくの高木。と。多ね伊人ともあひの

あらわとまよす。妻室かくまのへより
ともあり。それ度の人もひよこやくつは人れ
令のちふとまくわるそひしを大武も遠
ハ秀哥一そくぬちく。令とめられとゑ年
恒告への罪はわくと也。智車才一の倉利弗
レ伝よもうて。傳よへとひり。悉達を子の王伝
ととて。独ひあくへき。く教化を考れ
來。さくらむらはあく。はゆふ三男のたびと
ぬきては男と照りやう。迦葉教者もんと
ひよ義もひし。一太刀の歴志ゆれし也。

引ひやくらの村海牧童をせはづ林のがん御
御のやかとがたあくねやうにゆ食う。おんの聲
ふきととがどとととと作りひ湯はまゆくあ
御見ゆ也。十神よううとととわゆくへうれしう
たとのとあるとさくべ。御手ととゆ作志。月とさ
す。かゆびとみくられどひ。又人ののととと
とあとく。古人のほらきとみじもかとて先人
和めめぢり

りどと書たり。向ててすがちるきふわが
あくはあとのえまへか役ひよトをあべ
佛はうだ家ひむすへ遠よきれり。云

のあくはせりべづばと也

儒教道立教よりれり。がのとく教家よりく
それた原ハ一たりといひ。よ情ゆきをひの
やよ幽柄園居とのもろみて。帝八舍席あり
まやくと人乃初モ中にせよ若とえらるべ
りとく。ゆど人ゆめりとせんねうつ。前
胡貴乃よりや。づううとあうれ人のよみの

お人へりべと也。維摩居士の樹下のすな
ハ文殊大聖來く礼き。許由ハ箕山の履
の倉せし。松乃きよ。じよ。見風とす。人
間へ是と是す。顏回ハ一草一瓢のく。
余よびれてすあり。鎮辰ハ菜序とく。
とく。あよするほど。ゆうれど。豈と也。か
子批ハ絶よふとおどり。とててねぎた。を食の
日ハ天下降れ火とす。り。あれよ人ハ水と化人よ
をせた。安き世よも名と照と。鴨長ゆが石乃床
よ。後ちね流二度水車にうつと也。ぬものも

仙なる。利も無て。徳すらぐれど。佛のゆの如くと
せうへきゆ。とくに。手不執卷。讀常
此經。口無言。契遍誦。衆典。君子道。少人貪。是
の人ハ公私へ。以はす。哥林のたよわざび
也。とくへえんか。哥林のとくづひで。
也。じか。掌れ。ほく。とく。やう。取病及毒
氣。寄主。人中。宿。外。力。業。力。に。よ。す。とく。舊
ノ。こ。され。鳥。の。よ。り。向。とく。私。とく。火
子。上。憚。ハ。あ。さ。ざ。り。難。り。とく。也
又。ひ。と。よ。教。ゆ。と。先。と。と。身。と。う。爲。く。か。ん。お
み。不。仁。

人。世。よ。教。ゆ。公。と。す。そ。と。し。る。人。よ。教。み。れ。傳。
而。しが。れ。ハ。あ。り。の。よ。弟。父。よ。そ。し。る。み。れ。た
と。見。傳。ハ。乃。し。う。れ。き。だ。み。れ。傳。ト。と。是。
又。傳。ト。ウ。傳。ら。人。よ。有。と。也。大。人。傳。り。傳。り。も。す。
た。見。と。て。父。そ。ま。ね。好。士。傳。り。よ。見。て。や。り。と。よ
仙。傳。ゆ。り。う。人。よ。有。と。也。大。人。傳。り。傳。り。も。す。
教。人。ハ。御。又。作。み。く。胸。の。う。ら。あ。く。れ。傳。と。也。
他。ハ。一。す。と。か。て。ち。の。大。小。と。め。ハ。人。ハ。一。言。
と。と。そ。て。そ。の。數。通。ト。ト。而。也。仁。者。み。有。勇。勇。者。
み。不。仁。

迦叶の人乞^{カシメ}と行つめく。ゆへなれまとは^{シテ}ぬ
をも。佛作^{ハタシ}乃^ハはまよ都^トや。わが^ハく^ル
道^ミよ^シま^ハ人のがよ^トを納^メし河^クく^ミ
竹^ト。右奥^ノこ^トうゆる。つづが^リあゆ放^{ハシメ}の好^{ハシメ}
士^{ミツル}。感^{ハシメ}ハ^{シメ}か^ハべ^スと。佛及五百羅^{ハラ}
漢^{ハシメ}と^{ハシメ}。極^{ハシメ}乃^ハは丘^ト一人^ト舊^{ハシメ}の
獨^トうか^トの^ト。又^{ハシメ}戒^{ハシメ}育^{ハシメ}因^{ハシメ}の事^{ハシメ}も^リ
する。舍利弗^{ハシメ}同^{ハシメ}連^{ハシメ}の^ト。やまと^ト後^{ハシメ}
佛心者大慈^{ハシメ}世^{ハシメ}公^{ハシメ}也^ト。たゞ^トうり^{ハシメ}か^ハく^ル。ん
ち^トうり^{ハシメ}窓^トから^ト。あ^{ハシメ}ひき^ト不^{ハシメ}津^トの^ト丘^ト

く^{ハシメ}あるだ^{ハシメ}す^ト。礼^{ハシメ}せざれも^{ハシメ}
無^{ハシメ}。い^{ハシメ}バ^{ハシメ}り^{ハシメ}よ^{ハシメ}御^{ハシメ}人^ト。お^{ハシメ}れ^{ハシメ}や^{ハシメ}ど^{ハシメ}り^{ハシメ}世^ト
よ^{ハシメ}き^{ハシメ}石^ト。と^{ハシメ}い^{ハシメ}も^ト。佛^{ハシメ}よ^{ハシメ}る^{ハシメ}ね^{ハシメ}罪^ト
を^{ハシメ}代^{ハシメ}よ^{ハシメ}い^{ハシメ}家^ト。よ^{ハシメ}は^{ハシメ}き^{ハシメ}ば^{ハシメ}万^ト人^ト殺^{ハシメ}と^{ハシメ}
あ^{ハシメ}た^{ハシメ}。お^{ハシメ}た^{ハシメ}。堯^{ハシメ}實^{ハシメ}え^ト。それ^{ハシメ}よ^{ハシメ}り^ト。
後^{ハシメ}と^{ハシメ}。あ^{ハシメ}と^{ハシメ}。人^{ハシメ}よ^{ハシメ}り^ト。か^{ハシメ}と^{ハシメ}。
人^{ハシメ}。人^{ハシメ}と^{ハシメ}。人^{ハシメ}と^{ハシメ}。人^{ハシメ}と^{ハシメ}。人^{ハシメ}と^{ハシメ}。
下^{ハシメ}よ^{ハシメ}り^ト。船^ト。收^{ハシメ}よ^{ハシメ}達^{ハシメ}た^{ハシメ}人^ト。之^{ハシメ}相^{ハシメ}。心^{ハシメ}相^{ハシメ}
と^{ハシメ}ま^トす^ト。そ^{ハシメ}り^ト。莫^{ハシメ}帝^{ハシメ}。收^{ハシメ}童^{ハシメ}乃^{ハシメ}所^ト。信^{ハシメ}

あり。徳宗ハ農丈の末より海ひづるを走
士卒賊教よもぎの道と通す。大元をハ渭濱
ニ泊り、とくに又の車のまゝのまゝ。右後大
だの危険の尉國勝が子を抱いてゐた。所こ
そ多くそれ名としていはれ大内棟のちばどく家
らぬことを。松室仲英ハ北人のゆき門をじ
とも宗論よ八家乃頂官より。河鼻依正金極
至りきあり時高乃外士ハル下ノ一念と
えどと云ふ

御方也歎ほむにかくひとのほくよ。

内所勝劣又ゆる事たりくは。諒よあひ年
と中老まで。法信よ勝劣れんに人々。ほど
かくりぬ御身。万れどよわざりてあると也。
道よゆびんもとバ二年こそれがどう。そ泥泥
よゆり外をよくとく。そ泥泥

とて吾は確古文よ勝劣を紀。名とえく人長
シ。澄信ハ若よはく。定長ハ序達師と名
とく。衣と髪よ深ひ。わが弟よかく。日やひえ
の村湯よみづ。澄信トヨヒハ。されぞはく

志作ハ翁巻八名作。萬紀よもせじて翁が
翁と號よりひる。情深き詞也。あり
してもじでいとえのすとくじ。翁の法徳をわめ
あらどと也。

従ふ後名よひにちあく。りまつこしゆ。世
と承する。たぬし。匂の如くうしてやるより。富
一也。龍田裡をもさへ不韋也。耳泉早渴直木
先れ。車莫樹枯重荷船覆。久死人ぞ。もぐ
へ行れ。わうわうすらむりか。ひううよ。なが
り。まくはくとさとてたゆく。よそ。おみ

老不死賦也との語り。色好は辭がつる人全
久矣た四十年と書わる。うつて。中流
船泊を定法師とて。年八十。至道ハ。方八角
や不肖なら。まんあく。述懷と。のせじと。也。新義
集よ四首へられ。翁とて。機忘と。九首。して。源と。か
が。さゆ。よ。の。何。奇。十余首。へねる。と。く。て。ば
時よ。う。と。き。う。と。き。う。と。き。う。と。き。う。と。き。
あ。う。人。な。う。と。き。う。と。き。う。と。き。う。と。き。う。と。き。
け。風。と。虎。の。と。き。う。と。き。う。と。き。う。と。き。う。と。き。
風。と。虎。の。と。き。う。と。き。う。と。き。う。と。き。う。と。き。

聖誕法師 今ハ八時ハシナニより詠歌カウヤウ。物位モトがれ
トトあら歎カウタセテ乃オ第タメ席シテのちヒへよ。皆ミツにてシテ也シ
かシ。迄ヨ恨シとシ。情深キミチもシ也シ。又アリ因イ
津ツ御ミ古コ名メ都トとシ。不ハ可ハ身シ。身シゆウりけル。波ハく
はハ取ハシム。詠歌カウヤウをシテ侍スル也シ。けふハれ人ハなシの通ス乃オ寄シ
人ヒトトシ。是シ所シ也シ。喪マツキよりたケどシ
モ。人ヒト間シ毀ハサム。登ハシム。化ハシム。若ハシム。魚ハシム。世シ上シ用シ捨ハシム。食シ福ハシム

國カウノ國カウノ好シ也シ。又アリ少シ也シ。或ハいシてシ。人ヒトす
かシやシ。侍スル。先ハシム人ヒト侍スル。既ハシム。よハシム。後ハシム。人ヒトす
づシ。獨ハシム。獨ハシム。とシ。又アリ少シ也シ。書シ侍スル。巴ハシム。こと

生ハシム。

まよわをしとひのり。佛へ心法眼慈涅槃め心
内本と逃葉ひくりて。破散微暖へひへ
ゆことと草作審下不立文字へひへ
おとよひきか人れ。酒ぐくれ能藝深合へて。極
おもむ事にほくろへやり。よろへとことつて。約
やん。古漫の造作へ。萬物よま実八雲の人
を。よの能藝めくづどといす。それとも能藝
よ相資お及とそ。足合へてよゆきもあり。
めくづくゆくとせ。掌門。佛名。喰り。手跡
あどひ。哥名よ相資のたがへ。又基將秦双
の名參へあづへと先達造作り

六音とくらきの類ハ。お及のつまゆへ。又樂
器乃経管たまぬくつるもづい。華音曲又お質
のねあづ。又鞠とまくは色いもくうどくは伊づ
名也。哥名佛作學つよ園基双六とまくは伊づ
相反とて大よ河とまくもづい。古人も大國よ
を獨歩れ人とのみゆく。故より一聲一鶴との
え。鳴り鶴古とげきん輩をれ謹みり也。又世
の名參へあづへと先達造作り
開け世中よ寄るよりお人前。またとて
さらりたかせぬ事もや。先達造作る。階級

されまよめくも是れひ。根拠もあわりまふ
一夜のさへ。單出退敵とことく。一そく
何れくも死七歩乃れ。八之乃弱みしらとそく
そあちきみく。故よたれ賞應ゆくと
見て竹色。猛獸ふみをけの毒虫これうるよを
らば。變形世は首付の折曲乃きのりとせ。
秀がれ驚のねある付も蘊うぬびすとゆく。
もふ下れさんよわす。ひすゆめれ喫き
はゆす。くすゆすれんじれどりよは滅は
難は本法の付。蒙塔仏像たの通本多うじ。

是滅の付からりとゆく。もふあまとせよ
ぐらん人の性も音もはきりやれば。今後是
はきりもじたまつゞく。もん嘗ハ情う
きなべ。佛名化せよからんと云ひてし。
羅漢を化せよ。破戒毘婆盧の傍ようとそく
とみくせよ。金銀を化せよ。はきり。何ぶね
おれよ。何よ。のがれた。ふざく。わき人
を。かねて。本法の株根のも鐵よ。而も代
代集の大天体も。あまじよ。久發ひ

もかかの信をもやう。隣に終心持
木永らとど外がくみ絵ががく
筆扇鶴が良まし。ごくへりて
人れ病とべやまよせ。仙活とこちと
のうすなまく。唯うれ人のたのひるまく
あらせとより。他は、文樂とくともまく
あらう。骨がえられたり。又續て見し。
車の植ひのみ。車作乃翁雅門
なり。仙もどきよ。追様よどて。人の手
通ひて。とくよ。況くよ。とく不湧続

放ちめ難思とのう。鶴乃河ハヤガマ
じとづけハジル。夢八何モセキレ。と
きしハリシトツ。方位の愚ハム。主の後
智ハ邪と。又冷泉のや御も秀と。ま
るもと。にゆく。称ナ。自ナ。高哥。今ノ。が
シタ。のびてと。志ナ。タヒト。と。是モカ
シタ。度ナ。ア。聖人。人。御。人。ト。と
ハ。と。も。高。聖。人。人。御。人。ト。と
ト。村。と。次。祖。以。假。名。室。内。舞。事。也。之。代。定。

皆得成佛。歌速高。法報
鷲乃三刃。空窟中れニ神八羽の如也。
うらひとてことりづく。やんへ。遊がれあ
うろかす。五筋六根とわ
佛なるゆよ。つづき。五蛇の好士也。
ぬまちるか。報者八佛
ぬまちるべ。八枝と稱く。ある付ハ双
阿ふ付ハ御もさ。智慧も御もさがてハ
うべ。もどるをもらす。れ。うれんよ
ちくれか。能事のあらゆ。ちふ

も純右みくし。乗りがふてす。ゆき
とさうくぬうそひくるその人れあれこよ
ハ。のまうかかへとせ。やだ室わらふよ
わい叶うと
佛はとゆりてゆとよの佛とねむん
みを哥たとくまうてわきあわなざ
らんみをづ。めうつとゆとよの日しき。い
ざくら宮と玉御の歌連歌とえめやん。ハ。
おうめぐれ。ゆとよの佛。歌の哥もえま
きあわく。くび。きくよよよに無

て感傳とくとわむるは。是を他林宿
万象とぞゆき。遊がん松の室をし草木を
ごくれも称す。らあぐ。是とどうう
おれかとくとりよ。又その法事の佛。とうまん
の業をゆこととらう。りくす
れ。一とくはやくこねねがめをとくえ
れ。とも。あはれ。よ。いのり。うは。け。
と。まく。庭前柏樹とく。ばせ。なと。そ
く。よ。おねや。ば。ま。御。よ。うの。こと。お。
仰と。説す。あと。がれと。りよ。聖人。まく。

故我礼一切慶

聖人。あと。じ。故我禮。萬象即。是
佛。はく。智門。かく。聖門。ハ。く。か。め。な。ご
く。歌。た。も。此。門。乃。好。士。た。く。て。念。仏。む。ど
う。れ。事。の。も。も。也。樹。右。と。ぎ。す。れ。も。ひ。事。れ
れ。と。思。有。み。び。め。て。聖。門。ハ。天。台。是。が
あ。す。此。門。あ。く。ど。ま。る。も。あ。冥。ろ。ま。と。う。れ
が。う。ま。に。あ。す。を。と。く。べ。さ。む。じ。業。よ。は。浦。

ときたるも。行ひければ。まことに。かくも。お
れとよすと。おれをかが。づゆ。ゆく。入ては。はうのゆ
ゑうべ。西が澤去。每あふ。軍竟。逍遙。敵。有。と
あ。く。お。北。む。う。ま。う。れ。か。み。を。と。た。て。ゆ。る。
お。八。ち。見。ま。ぐ。也。十。ち。見。れ。公。ひ。り。う。て。ハ。若。酒。
あん。づ。ら。よ。う。ま。く。酒。く。酒。
幻。化。け。ち。ち。と。か。と。て。幻。忘。と。除。て。ほ。忘。物。を。
幻。み。け。ず。を。逃。す。じ。あ。ん。の。意。想。と。わ。に
きて。む。さ。う。れ。ま。い。と。あ。ん。づ。り。ぬ。く。
古。人。乃。活。竹。十。九。と。く。そ。れ。く。ま。ん。人。ハ。酒。

と。に。め。い。し。や。あ。わ。り。ご。と。と。
利。性。堪。能。樹。右。曉。り。道。心。も。除。ゆ。仰。ま。わ。
ふ。兩。人。年。を。考。へ。や。う。け。み。こ。れ。と。と。
そ。で。く。る。人。お。が。う。言。あ。と。わ。り。ご。と。と。
實。人。い。え。古。樹。よ。一。度。お。聖。人。い。ふ。歲。よ。す。ひ。
わ。う。と。ど。う。大。國。あ。と。我。物。あ。と。な。の。實。に。
お。れ。あ。お。め。く。と。と。う。

佛。法。空。を。活。れ。財。法。の。賊。と。セ。で。モ。定。や。り
ね。バ。哥。な。あ。セ。あ。く。き。ト。セ。

佛。法。空。七。空。

伝戒慙懶多聞智惠捨棄一

教道七則

大酒睡眠雜談德人妄教寄早口絕識
けあぬ之廉言もことわらひてよしとせ也。
則寔ノ高行ハ大虛ノごとくを知。わきの
もかく。かけ多くてあつて。人々因く事か
わづくすり。もとどりたハ化よつとす。也
大名もくれて仁極わり。大智いで大偽の也。
迷あ元也ハ元也非也。是前乃有云ハ有。客也。
法は寔相ノ外。總ハ皆魔也。

今法若不肉貪欲あず利破也

十位罷院御教作

が云えやうども一聲あるひんじうあんざんろうのうちある。ト
寛正第十四賡庭賓上旬參籠中或仁連
歌竹馬用公之一下篇頻憤望ノ一回依雖
芸頃被仕筆一覽して後則可被投焰中
也殊改ニ恵悉以難可用捨也先草案
奉所乞也

此身皆秋色唯何弥陀佛是地也
文内四年初冬上旬

古類本源有より以之佳木而校合雷覺念
書字歌以實每行一通也

昔元禄三歳庚午三月吉旦

寺町通二条下ル町

中村五兵衛閑板

